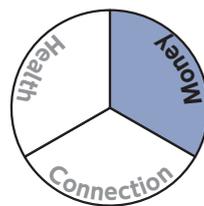


向こう1年間の市場見通し (6月6日時点)



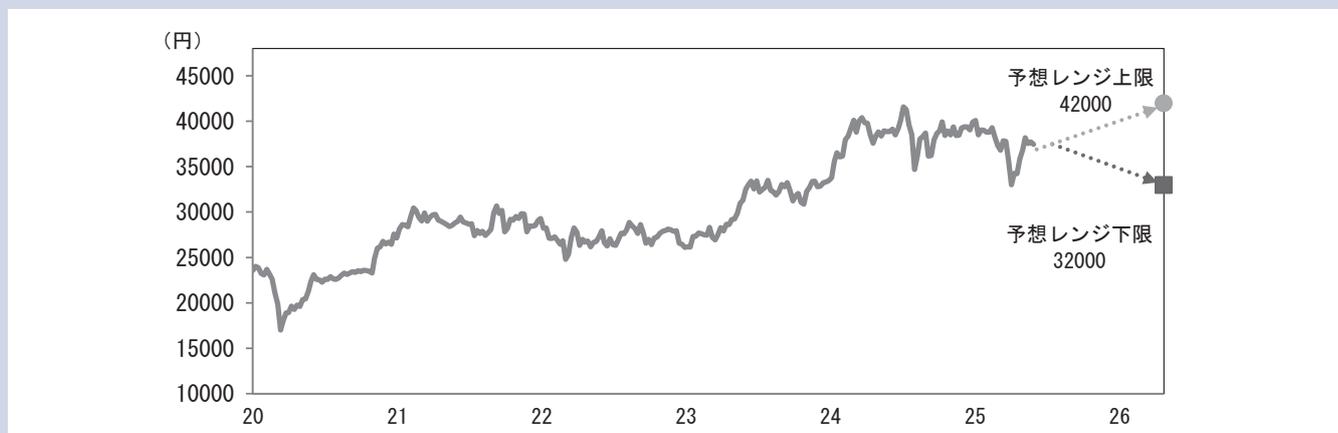
経済調査部 主席エコノミスト **藤代 宏一** (ふじしろ こういち)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は、米国が中国との通商交渉で暫定合意に至ったこと等から戻り基調にある。関税引き上げによる米経済への打撃を踏まえれば、今後も米国側の態度は軟化が予想され、日本企業の業績不透明感も後退しよう。また日本企業の積極的な株主還元が下値を支えたと期待される。
ドル円	米国は家計消費の減速が見込まれるものの、インフレ率加速の懸念もあり、FRBは政策金利を据え置く可能性がある。利下げ観測が剥落し、米長期金利が高止まりすれば、日米金利差に着目した円売り・ドル買いが続く可能性がある。もっとも、株価急落時には短期的な円高も想定される。
金利	日銀は25年1月に追加利上げを実施し、政策金利は0.5%となった。5月会合では慎重な見通しを示したが、人手不足由来のインフレ圧力は残存していることから、今後の利上げに含みを持たせた。長期金利は1%台半ば～後半で推移するとみている。

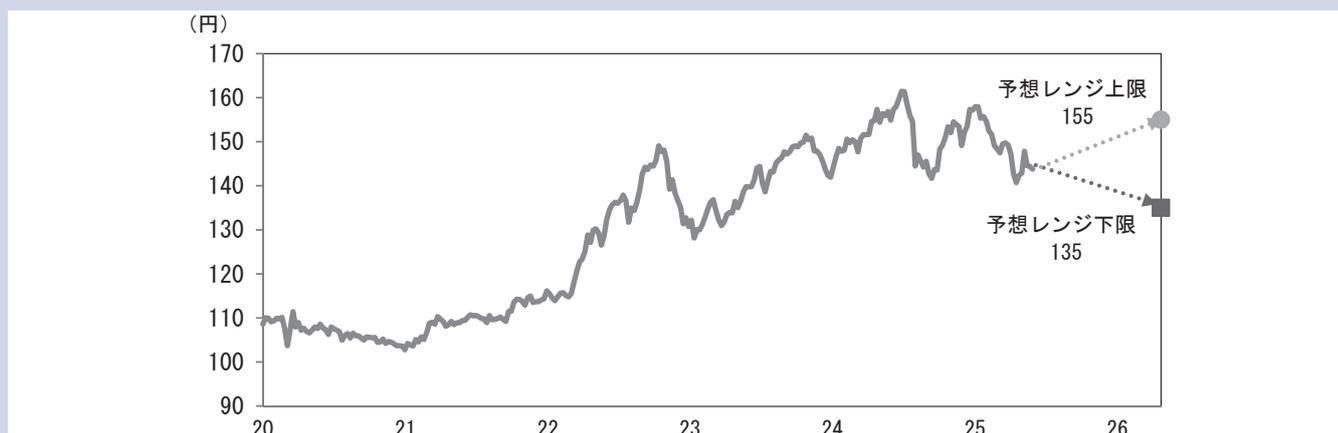
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所) Refinitivより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所) Refinitivより第一生命経済研究所作成